

OPINION お客様の求める添乗員とは？ 添乗員の目指す業務とは？

添乗員とは、旅行業法では「旅行会社の企画旅行に同行して旅程管理業務を行う者」と規定されています。日本人が旅行に対して求める意識や、旅行そのものの形態が変わる昨今、それに伴い旅行会社や現地ランドオペレーターの戦略に変化が見られます。現在、お客様が求める添乗員と旅行会社が求める添乗員、それに加えて添乗員が目指す方向は合致しているのでしょうか。

元来、旅行会社は基本的に団体旅行の企画、営業、添乗を一貫して一人の社員、またはチームで行っていました。その後、添乗専任スタッフを採用するようになり、今では大手旅行会社は企画、営業、添乗を分業化し、添乗員といえば派遣添乗員が主流です。この変化は前述した日本人の旅行が変化しただけではなく、旅行会社の企業体力が揺らぐ過酷な状況(安売り合戦)による収益率悪化が大きな要因の一つだと考えられます。それを踏まえて、お客様が求める添乗員とは何かを探ってみようと思います。

お客様の求める添乗員とは？

ツアーの形態に違いはあるものの、基本的に添乗員同行ツアーに参加されるお客様は、業法に規定される業務を期待しているのと共に、とにかくわがままに旅を楽しみたいのだと思います。最近の旅行会社の風潮では顧客アンケートを取ることが多くなり、顧客満足度を競い合っています。方向性は良いのですが、異常なほど顧客のコメントを重視しすぎる傾向にあることも事実です。過ぎたるは及ばざるがごとし。私はランドオペレーターの現地駐在員と、旅行会社への営業としてお客様や添乗員と接してきました。その経験から言えることは「添乗員の仕事は本当に大変だ」ということです。先ほども触れたように、お客様は大抵わがままです。逆に言えば、わがままを言うために添乗員付きツアーに参加しているといっても過言ではありません。お客様の求める添乗員とは、総じてわがままを聞いてくれる添乗員なのです。そう考えれば仕事も捗るのではないでしょうか。しかし、わがままばかりを聞いてしまうと仕事になりません。

次は、添乗員の目指す業務について触れてみましょう。

添乗員の目指す業務とは？

昨今の添乗員は派遣添乗員が主流です。つまり、添乗の仕事が好きな方が、添乗の仕事に就いていることが多いのではないのでしょうか。以前は、旅行の企画担当者や営業を得意とし、添乗は少し苦手な方も多かったと思います。しかし、プロ添乗員の方は添乗員を目指し、総じて旅が好き、そして何よりサービス精神が豊かで人のために何かをしてあげたいという気持ちを持っている人達がほとんどだと思います。実に立派であると思います。先ほども触れましたが、お客様はわがままです。しかし、お客様も分かっていると思います。プロ添乗員さんであれば、きっとわがままを聞いてくれると。皆さんがいらっしゃるおかげで、今後も添乗員付きツアーはなくならないように思います。

皆さんに目指してほしいことは、添乗員を目指していた頃の気持ちを忘れないで、お客様のわがままを十分に聞き、時にはお客様の間違いも諭す勇気も持っていただくこと。これを切に願います。

以下は米国の経営学者ピーター・ドラッカー氏の名言です。『真のマーケティングは顧客からスタートする。すなわち(顧客の)現実、欲求、価値からスタートする。「我々は何を売りたいか」ではなく、「顧客は何を買いたいか」を問う。「我々の製品やサービスにできることはこれである」ではなく、「顧客が価値ありとして、必要とし、求めている満足がこれである」/「マネジメント』

最後に、旅行業界もそれぞれが違う仕事で頑張っていますが、一番大事なことは、自分がいかにその仕事に真っ直ぐ向き合うかだと思います。これからも頑張ります。



TCSA理事
(社)日本海外ツアーオペレーター協会会長

大畑 貴彦氏

CONTENTS

OPINION 1

お客様の求める添乗員とは？

添乗員の目指す業務とは？

(社)日本海外ツアーオペレーター協会会長 大畑 貴彦氏

特集 2

制度に“血”を通わせ、“情”で人を動かし、
人の心を癒した 被災地支援活動!

TOP INTERVIEW 4

国土交通省 観光庁 長官

溝畑 宏氏をお訪ねして

TCSA REPORT 6

9月30日は東京ビッグサイトに全員集合!

JATA旅博2011

25周年記念書籍を発行

TCSA REPORT 7

旅程管理研修 10~12月の実施日程のお知らせ

派遣元責任者講習会スケジュール(10月~12月)

2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ④

TCSAだより 8

平成23年度「添乗員能力資格認定試験」12月7日(水)に実施

会員動向 編集後記

制度に“血”を通わせ、“情”で人を動かし、人の心を癒した被災地支援活動!

大震災、大津波後の被災地が映し出された光景を見た人は誰も「今、自分にできることは?」「何か役に立てる方法は?」と思ったことでしょう。そうした思いを実際に行動に移し、いち早く現地に入り支援活動を行った人たちがTCSA会員にも大勢いました。

観光庁、内閣官房、旅行業界、JATAなど関係先に働きかけたNPO法人 日本トラベルヘルパー協会の篠塚恭一理事長(TCSA正会員(株)エス・ピー・アイ 代表者)に活動の報告を寄稿していただきました。

寄稿

篠塚 恭一 理事長

山形県最上町のいち早い被災者支援の取り組み

今回の活動は震災直後、雪の中を被災した家族連れがトラックの荷台に乗って最上町の保養センターに宿を求めて来たことがきっかけで、最上町が町をあげて支援に動いたことから始まった。ゴールデンウィークには、長期化する避難所生活に疲れた1,150名の被災者を2泊3日で招待している。

介護旅行を支援してくれた人達からもこの活動に賛同し、活動資金のほか、衛生除菌消臭剤や高品質の介護用おむつなどの提供をいただいた。

町の活動を知った最上の子供達は「お年玉を使ってほしい」と役場へ募金にやって来たという。「町の未来を背負う子供達が、そういう温かい気持ちでいるのだから、私達大人が今、がんばらなければ」と高橋町長が言葉を震わせたのが印象的だった。観光担当の伊藤係長は、役場内を調整し100名分の予算を牡鹿地区の活動支援として確保すると約束し、被災者の受入れに名乗りを上げた。

我々トラベルヘルパー協会は、以前から介護旅行で交流のあった最上に、この短期避難では、介助が必要な人や長期にわたる避難生活で弱っている人も積極的

に受入れるように提案した。なぜなら、長引く避難生活者の中で介護が必要な人や障害を持つ人が、極端に弱い立場に追いやられているからだ。

たとえば、震災から2カ月が経ったある避難所では、コンビニのおにぎり菓子パンの生活が続いていた。94歳になる母親フジ子さんと津波を逃れ、高台に命からがら避難した菅さん親子もほとんど風呂に入れない生活を送っていた。菅さん親子は最上の保養センターで、トラベルヘルパーの介助によって、ようやく震災後3度目となる入浴ができたのだ。そして、温かい料理を嬉しそうに食べていたという。

最上へは数班に分けて招待をしたが、第1班には知的障害者のグループ10数名が参加し、第3班には聴覚障害を持つ人と認知症で要介護の夫婦も参加していた。実は3班に同行した宇田川トラベルヘルパーには、当初バスの付添いだけを依頼していた。ところが集合場所に集まった人を確認したところ認知症や障害のある人がいて、その人達の面倒をみてもらうことになってしまった。このことから、被災地支援でも移動支援や介護旅行システムは、今後必要だと確信できる。

篠原恵理子さんの奮闘

支援の取り組みは各地で始まっていた。療養のため休職していたフォーラム・ジャパンの篠原さんは、震災直後から友人と石巻へ物資運搬やヘドロ掻きなどのボランティア活動で被災地に赴いた。そこでのボランティアがきっかけで、支援の手が全く入らず困っていた牡鹿半島の人々に支援物資を集めては届ける活動が始まった。

地方ではよそ者が集落に入るのに大きな抵抗を受けることがある。ここも気性の激しい漁師町で、初めは他者を受け入れようとしにくい土地柄だったという。人間関係づくりに苦労した篠原さんだが、自分を初めて快く受け入れてくれた小網倉浜の被災者と親しくなり、そこで避難所生活を見て少しでも温かい食事とお風呂を提供したいと感じたそうだ。そこで、60数名の避難生活者

を近くの温泉に招待しようと考え、仲間呼びかけて支援金を募る動きを始めた。

この活動に共感してくれたのが仙台秋保温泉「蘭亭」の早坂マネージャーだった。話は素早く進み、4月末に計画が実行されると、篠原さんらの温かい心に触れて涙を流し感謝した被災者が少なくなかったという。



楽しみにしていた入浴時間

心の通う被災地支援を!

正直我々も、被災地に入ることが本当に良いのか当初不安があった。活動を進める程に戸惑うことも多く、どうしていいかわからないこともあったが、何かに後押しされるままに動いていたように思う。そして、被災した人々に喜ばれ、感謝された時に「やってよかったんだ」と感じた。はじめて自分の行動が腑に落ちたように思えた。救われたのは我々の方だった。

理で人は動かない、制度があってもダメだ。支援活動では情があつてこそはじめて人が動くことを学んだ。

あれから、石巻では最上の実績を習って、さまざまなりフレッシュプランが紹介されるようになった。毎月300名以上の被災者が、この短期避難プログラムで復興への気持ちを取り戻しつつある。

この活動を陰ながら支えてくれたTCSA三橋専務理事やフォーラム・ジャパンの平田さん、ご支援いただいた旅行業界、政府関係の皆さんに改めてお礼を述べたい。また、被災された観光産業にかかわるすべての人とともに、この試練を乗り越え、新しい時代に相応しい観光産業を再興しようと意を固くした。

奇しくも被災地は高齢化率が30%を超えた地域だ。先進国で最初に超高齢者社会を迎えた日本がいかにかこの難局を乗り切るのか、世界からも注目される。これらの課題が重なる東北観光の復興は、その希望ととらえられている。旅のチカラ、暖かい人の手が入った観光は人の心まで癒すからだ。

終わりに

一般の旅行にも介助を必要とする方の参加が増えている今、NPO法人日本トラベルヘルパー協会(外出支援専門員)の存在は意義深いものです。旅行会社の現場の方々にも新たな専門職として認識を深めて欲しいと願っています。



最上の保養センターに無事到着

国土交通省 観光庁 長官

溝畑 宏氏

平成22年のTCSA総会後の懇親会。来賓祝辞の中で観光庁長官に就任されたばかりの溝畑長官が「私も学生時代にスキバスの添乗をアルバイトでしたことがありますので、皆さんの日頃のご苦労はよく解ります。大変ですが、非常に重要な役割を果たしておられる皆さん、これからも頑張ってください!応援しています!」とエールを送ってくださいました。



三橋専務理事(以下三橋) 未曾有の被害をもたらした東日本大震災発生以来、風評被害や過度な自粛ムードによって、元気を失いつつあった日本国民ですが、4月の長官のメッセージに私どもは励まされました。その後も、国内外東奔西走エネルギーに活動される長官に、先ずは今のご心遣うかがいたく存じます。



■ 始まったばかりの復興に向けての取り組み

溝畑観光庁長官(以下溝畑) 地震による津波や原発事故が重なり、日本の安心・安全というイメージが著しく損なわれたことで、今だかつて体験したことのないほど観光に大きなダメージを受けました。

そういう中、国内観光については観光関係者、中央自治体、関係省庁がいち早く自粛を解消。旅行することで被災地を応援し日本を元気にしよう、日本の経済を活性化させようという動きで、当初予想していたより早い回復が見込めたと考えています。7月の3連休はきわめて順調にスタートしたことから、着々と回復しつつあります。今後は、お祭りや伝統的なイベントを絡ませ、脇を締めながらもより前向きに積極的に進めていきたいと思っています。

ただ、インバウンドについては、完全に回復するに至っていません。しかし、皆さんの努力で、3月12日から3月31日までは前年同月対比マイナス73%、4月はマイナス63%、5月はマイナス50%、6月はマイナス36%と、徐々にですが回復の兆しが見えてきています。特にアジア方面は日中韓首脳会談、観光関係者、自治体、知事、市長など多方面の方々のおかげで回復の兆しが見えつつあります。まだまだ復興に向けての取り組みは始まったばかりですので、さらに夏に向けてテコ入れをしていきたいと考えています。

三橋 長官ご就任後、いち早くロゴを「Japan Endless Discovery」に変え、スポーツ・ツーリズム、メディカル・ツーリズム、グリーン・ツーリズムなどプロモーションを展開され、順調な進展が期待されていた矢先の震災で業界も苦慮しております。マーケットが低迷している今こそやるべきことは何でございましょうか。

■ 国民全体の意識改革を目指して

溝畑 多くの外国人を受け入れている施設の

従業員はきちんと教育されていますが、外国人をあまり受け入れていないような地方の施設従業員の教育はまだまだだと感じます。たとえば、イタリアは観光地だけではなく、タクシードライバー、レストラン、歩いている人の表情まで全てがテーマパークのようになっていて、そこにホスピタリティが溢れています。日本が訪日外国人3000万人を目指すのであれば、国民一人ひとりが意識を変えていかないとはいけません。イタリアのピサでは、小学校で「ピサは世界で一番美しいところです。ピサをみんなで愛しましょう。お客さんが来たら必ず笑顔で帰しましょう」と教わります。日本人にそれができているかというそうではありません。観光は子供の教育から入らないといけないと考えています。私は、観光庁に働く人達全てに自分から挨拶や声かけをするようにしています。

本当にこの国にとって観光が非常に重要な産業であることを国民の皆さんに知らせなければならぬと思います。私が観光庁長官に任命されて最初に思ったのは、日本の観光庁として毎日テレビや新聞に露出して日本の観光をメジャーにしたいということでした。

三橋 観光庁が非常に明るくなりましたのは、長官自らの実践の賜でしたのですね。

協会では添乗専門職の人達の社会的地位向上のための活動を行っております。旅のスペシャリストとしての自信と誇りを持って働き続けられる環境づくりや、業界内外へのアピールを関係機関の皆さんととも

にご支援をいただきたいと考えています。長官からも是非メッセージをいただきたいのですが……。

旅のスペシャリスト・ ツアーコンダクターへの期待

溝畑 個人旅行はインターネットで手配可能な時代に、なぜツアーコンダクターが必要なのか。個人では体感できない



ノウハウやコーディネート能力、そして安心・安全な旅をしたい方はお金を払ってきっちりしたサービスを求めるでしょう。それゆえ潜在的マーケットは大きいと思います。私がスキーツアーの添乗を経験した時に、刺青入りのオッサンがいて往生しました。お客様として参加された以上帰せないで、臨機応変にその人をおだてあげて対応したら、雰囲気はよくなり、全員に昼食をご馳走してくれてビックリしたことがありました。ツアーコンダクターは機転がきかないとダメですね。お客様の雰囲気を読んだり、コミュニケーション能力、人を喜ばせるエンターテインメントや遊び心も必要だと思います。単に旅程管理をするだけでなく、旅行のブランド力、旅行の質や価値を高める重要な仕事をされている方々です。旅をクリエイティブにポジティブな気持ちで皆さんに持っていただきたいと思っています。その時の空気によってツアー内容、質が変わっていくので、日々新鮮な気持ちでやる重要な職業ですね。それにふさわしい処遇も必要です。明るいツアーコンダクターやカリスマコンダクターをお呼びしてイベントをやるのもいいですね。三橋 ありがとうございます。JATA、ANTA、旅行会社の方々ともご相談しながら考えたいと存じます。楽しいお話をありがとうございました。



根っからのネアカ的長官のお人柄は、幼少時代からの海外で受けられた教育、訪問された国々でのご体験などによってつくられたのかしら……と思いながら、長官室でのホスピタリティ溢れるインタビューを終えました。

9月30日は東京ビッグサイトに全員集合!

JATA旅博の業界日に、国内・海外を問わずツアーコンダクターの皆様、ぜひご来場ください。主任者証もしくは、名刺を提示すれば※、業界日に限り無料で入場できます。今年も海外旅行ブースはもちろんのこと、国内各地域のブースが100以上も出展します。多くの国内旅行関連セミナーなど、資料・情報収集に絶好のチャンスです!

※会場受付にて業界入場登録券のご記入と、バッジ用に名刺または、お名前の記載をお願いいたします。オンライン事前登録をご活用ください。http://jata-jts.jpより(一般向けホームページはhttp://tabihaku.jp)

JATA旅博2011

業界・プレス関係者日: 9月30日(金) 10:00~20:00

一般入場日(有料): 10月1日(土) 10:00~18:00、10月2日(日) 10:00~17:00

場 所 : 東京ビッグサイト東4・5・6ホール

※今年は業界関係者の方でも一般入場日は有料となりまのでご注意ください。

「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2011」表彰式 メインステージ East 14:45~15:45
受賞者発表会 会場内特設セミナールーム A 16:15~17:00

旅のスペシャリストTCSA会員
一押しツアーコンダクター20名が語る

25周年記念書籍を発行

地球まるごと私の仕事場!

～カリスマ&ベテランツアーコン20人のドタバタ感動添乗記～

TCSAは、設立当初より添乗を専門職とする人たち(ツアーコンダクター)の社会的地位の向上を目指して活動してきました。添乗の現場では旅行会社を代表して旅の運営責任を担っています。また、旅行参加者一人ひとりの期待、目的、思いを探り、全参加者の旅行への満足度を高める役割も受けもっています。しかしながら、一般的には職務を正しく理解されておらず、いわば旅行中のお世話係のイメージを持たれているのは大変残念なことです。そこで、日頃は黒子に徹しているツアーコンダクターに光を当て、旅の専門家であるツアーコンダクターの声を集めた書籍を通して、リアルな姿やその高い専門性を理解してほしいと願いを込めた記念書籍を発行することといたしました。

目的

- TCSA設立25周年を記念して専門職ツアーコンダクターをアピール
- 添乗という仕事を正しく知ってもらい志望者を増やす
- 現役ツアーコンダクターが誇りを持って業務に望んでもらえる世論づくり
- Escorted Tourの素晴らしさを広く知ってもらう

主な内容

- TCSA会員一押しツアーコンダクター 20名のインタビューを元にした記事。添乗の仕事の魅力、苦労話、旅先でのさまざまな経験談、国別事情、モットー、人生観など。
- 旅のスペシャリストおすすめスポット(一番感動した街、おすすめのホテル、一番美しい夕景、旅のいろいろなコツなど約30項目)をアンケートから紹介。
- 正会員リスト

TCSA会員一押しツアーコンダクター20名と会社名

※順不同・敬称略

坂井信予(株)シーエム・ネット、五十嵐由紀(株)TEI、大藪和彦(株)ボイスインターナショナル、岡田吉弘(株)エステーエス、宮川明美(株)トップ・スタッフ、鳥飼智絵(株)阪急トラベルサポート、磯田知里(株)SPL、浦和愛子(株)ジャッツ、青木伸章(株)ティーシーエイ、辻村典幸(株)ティーシーエイ、上原昇吉(株)エコールインターナショナル、中山由里(株)エコールインターナショナル、広田星依子(株)旅行総研、小泉泰子(株)旅行総研、小島かおり(株)ツーリストエキスパート、高橋美加絵(株)フォーラムジャパン、麻生理恵(株)JTBインターナショナル、山田浩子(株)JTBサポート中部、柏崎洋一郎(株)オデッセイ、田近澄子(株)アルファ



題 名 地球まるごと私の仕事場!

発行・発売 株式会社 樫(えい)出版社
監 修 芦原 伸
協 力 (社)日本添乗サービス協会
発行予定 2011年9月30日
発売価格 1,260円(税込)



旅程管理研修の開催日程

<旅程管理研修開催スケジュール>

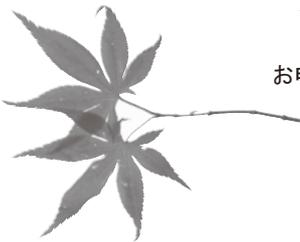
地区	実施コース	実施日程	申込締切日
東京	国内・総合研修	10月 18日 (火) ~ 20日 (木)	10月 11日(火)
東京	国内研修	11月 8日 (火)・9日 (水)	10月 31日(月)
東京	国内・総合研修	12月 13日 (火) ~ 15日 (木)	12月 5日(月)
名古屋	国内・総合研修	12月 6日 (火) ~ 8日 (木)	11月 28日(月)
大阪	国内研修	10月 18日 (火)・19日 (水)	10月 11日(火)
大阪	国内研修	11月 8日 (火)・9日 (水)	10月 31日(月)
大阪	国内・総合研修	12月 13日 (火) ~ 15日 (木)	12月 5日(月)
広島	国内研修	10月 3日 (月)・4日 (火)	9月 26日(月)
福岡	国内・総合研修	12月 12日 (月) ~ 14日 (水)	12月 5日(月)
那覇	国内研修	12月 1日 (木)・2日 (金)	11月 22日(火)

※「国内・総合研修」コースで実施する場合、国内コースは1日目・2日目の受講となります。
 受講前日までであれば受講取消料は無料、もしくは受講日程延期の対応をいたします。
 研修催行確定(締め切り時点で国内・総合コース5名以上申込)の場合、申込締切日以降であっても基礎教本相当研修修了者については、受講前日まで受付いたします。

派遣元責任者講習会

スケジュール (10月~12月)

右記日程で開催します。
 講習時間:10:00~17:00
 お申込:TCSAホームページより



開催地	開催日	受付状況	会場
東京	10月 13日 (木)	受付中	大井町きゅりあん
東京	10月 24日 (月)	受付中	大井町きゅりあん
東京	11月 9日 (水)	受付中	大井町きゅりあん
東京	11月 21日 (月)	受付中	大井町きゅりあん
東京	12月 2日 (金)	受付中	大井町きゅりあん

2000日添乗員の



連載 42

3回の震災ボランティアを経験して

キャリアロード(株) 樋口 進さん 平成19年度関東運輸局局長表彰

東日本大震災後、ボランティアに行きたかったのですが、県外の人を受け付けないなどいろいろな条件がありました。手伝いたい気持ちがあっても交通渋滞の原因や、体力不足では邪魔になるだけなので勝手に現地へ行けない状況です。

そこで、TCSAが紹介するサイトで探したボランティア団体に申請しました。被災地で問題を起こす人がいるので面談がありましたが、私は石巻市の湊地区に派遣されました。そこは、自衛隊が一番遅れて入った場所で復興が進んでいない地域。往復の交通費や食費など全てが原則自己負担。連続3日間以上が条件だったので、私は6日間の申請をしました。

主な仕事は、住宅や側溝のヘドロかきを中心で、2、3日で肉体の疲労は限界に達しましたが、何とか頑張り抜きました。その後、1週間自宅に帰り体力の回復に努め、6日間の作業、6日間の休養と繰り返し3度赴きました。筋肉疲労に加え腐敗臭が悩みの種の現場。私は2日目に嘔吐しましたが、食あたりではなく24時間絶えることのない臭いが原因だったようです。不思議にもそれ以降は、悪臭に体が順応できるようになりました。失礼かもしれませんが、被災者はずっとその腐敗臭の中での生活を余儀なくされているわけですから、私が軟弱すぎたというわけです。

行動の引き金は、添乗生活の中で多様な価値観を学習し、隣人の悲しさや喜びを私のものとして感じとることが、グローバリゼーションの始まりと考えるようになったからです。教会建築を詳しく説明する能力よりも、愛ある行動をとることの方が重要と考えるようになったのは、添乗の仕事から派生したものと信じています。

まだまだ被災者は大変な環境の中で頑張っており、ボランティアの助けを必要としています。



平成23年度「添乗員能力資格認定試験」

12月7日(水)に実施

TCSA だより

「添乗員能力資格認定試験」を実施いたします。添乗業務に関する能力を客観的に判断するよいチャンスです。詳細は後日ご連絡いたします。



受験級	1級～3級
受験資格	1級は2年以上、または200日以上の添乗日数 2級は1年以上、または100日以上の添乗日数 3級は学生や一般人でも受験可能

会員動向

正会員

●入会

(株)ヒト・コミュニケーションズ
代表取締役社長 安井 豊明
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-7-12
電話:03-5952-1111 FAX:03-5952-1112

●退会

(株)クリエイティブツアーズ(会員番号022)
代表取締役 岡田 勝美
添乗派遣事業廃止の為

●代表者変更(順不同・敬称略 < >内は前任者)

(株)ジャッツ
代表取締役社長 石黒 祥隆 <都築 英信>
(株)阪急トラベルサポート
代表取締役社長 松田 誠司 <西尾 隆>

●住所変更

(株)ツーリストエキスパート中部添乗業務センター
新住所:〒450-0003
名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル16階
新電話番号:052-561-8745
新FAX番号:052-587-1745

(株)トップ・スタッフ中部支店
新住所:〒460-0003
名古屋市中区錦1-13-26 名古屋伏見スクエアビル6階
*電話FAX番号は変更なし

(株)エコーインターナショナル札幌支店
新住所:〒060-0005
札幌市中央区北5条西5丁目2-12 住友生命札幌ビル4階
*電話FAX番号は変更なし

(株)旅行総研仙台営業所
新住所:〒980-0014
仙台市青葉区本町1-11-2 SK小田急ビル7階
*電話FAX番号は変更なし

(株)エコーインターナショナル名古屋支店
新住所:〒460-0003
名古屋市中区錦1-17-26 ラウンドテラス伏見6階
*電話FAX番号は変更なし

(株)アルファ
新住所:〒104-0061
東京都中央区銀座8-15-2 WAVE GINZA 10階
*電話FAX番号は変更なし

キャリアロード(株)ブローリア東京
新住所:〒105-0014 東京都港区芝3-3-15 芝MONTビル2階
新電話番号:03-5232-2213
新FAX番号:03-5232-6601

(株)阪急トラベルサポート
新住所:〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービスOSAKA10階
新電話番号:
総務課 06-4795-5740 経理課 06-4795-5741
企画課 06-4795-5743 業務管理課 06-4795-5744
大阪支店添乗派遣課 06-4795-5747

賛助会員

●代表者変更(順不同・敬称略 < >内は前任者)

(株)ジェイティービー能力開発
代表取締役社長 渋谷 正光 <新保 稔>
(財)日本交通公社
会長 志賀 典人 <新倉 武>

委員委嘱変え (敬称略 < >内は前任者)

●研修委員会

(株)エステイーエス 調 健太郎(所長) <世良 浩>

(((編集後記)))

5月から7月の期間に関西地区、北海道地区、九州地区、関東地区、中部地区の5カ所において地区連絡会を開催し、各地区の要望や提言をいただいた。その中で、添乗労働に関するコンプライアンスの再徹底や添乗業務に係る改善などが寄せられたので、早急に委員会で検討して改善を進めていきたい。しかしながら、地区協議会側でも会員相互とのコミュニケーションを図り改善する必要があるように感じた。派遣先から全ての添乗業務をオール込み料金で受けることで、添乗員に負担かからないように添乗派遣の業務区分を明確にしたいものだ。(M.B)

社団法人 日本添乗サービス協会
〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階
TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698
E-mail tcsa@tcsa.or.jp
URL http://www.tcsa.or.jp/